

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 教育学 ）	氏名	渡 邊 巧
学位授与の要件	学位規則第4条第1項2項該当		
論 文 題 目			
<p style="text-align: center;">アメリカ社会科における教員研修の思想と方法 －社会科教師の資質・能力形成を視点として－</p>			
論文審査担当者			
主 査	教 授	棚 橋 健 治	
審査委員	教 授	小 原 友 行	
審査委員	教 授	池 野 範 男	
審査委員	教 授	木 村 博 一	
審査委員	教 授	草 原 和 博	
審査委員	准教授	永 田 忠 道	
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は、社会科教師の資質・能力形成のあり方を解明し、社会科教員研修の改革を図る方途を示すために、多様性に富み、我が国の教員研修に新たな示唆を得ることができるアメリカ社会科における教員研修に注目し、その特質と意義を明らかにしている。</p> <p>本論文の構成は、序章、終章を含め、6章からなる。</p> <p>序章では、本研究が求められる背景を述べるとともに、本研究の課題とそれを達成するための研究方法、意義を述べている。従来、社会科教員研修に関する分析研究は、教育行政学や教育方法学における研究視点を応用しておこなわれてきたが、それらは、それぞれの研修における教科固有性の解明には限界がある。それに対して、本論文は子どもの社会認識形成を担うことができる教師の資質・能力形成の論理を視点に社会科教員研修を考察するものである。</p> <p>第1章では、我が国における一般的な教員研修の代表的なものである伝統的におこなわれてきた校内研修に注目し、実際に小学校で行われた校内研修の分析を通して、社会科教員研修改革の論点と方向性を考察している。その結果、「社会科授業構成力」、「社会科教科観」というキー概念が引き出され、これらを視点として、各教員研修において、社会科教師の資質・能力の何を、どこまで形成・保障していくのかを分析することによって、社会科教員研修には異なった型を見出し得ることを論じている。</p> <p>第2章では、社会科授業構成力の向上を図る研修のあり方を論じている。具体的な検討事例としては、ボストン公共放送局（WGBH）がNCSSと共同で開発した社会科教員研修プログラムであるオンラインの学習サイト「アネンバーグ・ラーナー（Annenberg Learner）」が提供しているSocial Studies in Action : A methodology Workshop, K-5（SSIA）を分析している。ここでは、SSIAが特定の社会科カリキュラム論を設定するのではなく、多くの社会科教師が合意する理念を、具体的に授業計画へ変換する力の育成を図るものとなっていることを明らかにしている。</p>			

第3章では、社会科教科観の確立を図る研修のあり方を論じている。具体的な検討事例としては、「概念に基づくカリキュラムと指導」と呼ばれるカリキュラム設計論を提唱する民間の教育コンサルタントである H. L. エリクソンによる教員研修（実践支援）の取組を分析している。エリクソンは、教師が外部（他者）の理論を自律的に活用し、実践をおこなう中で独自の理論を構築し、それらを自身の実践や他者の実践に生かし波及させていくことによって成長する研修の仕組みを構築していることを論じている。

第4章では、社会科教科観の拡張を図る研修のあり方を論じている。具体的な検討事例としては、ミシガン社会科教育プロジェクトの一環で、開発された社会科教員研修プログラムであり、NCSSを通して提供されている『パワフルかつオーセンティックな社会科：教師のための職能開発プログラム（Powerful and Authentic Social Studies : A Professional Development Program for Teachers）』（PASS）を分析している。PASSが社会科の基本として社会問題学習を据え、実践例や参加者が開発したプランの分析を方法原理とした研修をおこなっているが、社会問題の扱いにおいて、多元的な考え方に気づかせるものとなっており、授業構成力の育成と共に、社会科教科観の確立・拡張に寄与することが目指される研修であることを論じている。

終章では、アメリカ社会科における教員研修の特質と意義を明らかにした上で、我が国の社会科教員研修を改革する方途を、社会科教員研修プログラムの構想を通して論じている。

本論文は、以下の点で評価できる。

第1に、教員研修カリキュラム（目標・内容・方法）における教科固有性に注目する社会科教育学としての教員研修の研究の必要性と在り方を示したことである。

我が国でもアメリカでも、社会科教員研修の取組（開発研究、実践）には、歴史的かつ膨大な蓄積がある。また、それらの分析研究も試みられてきた。教員研修を通じた教師の成長やその過程が明らかにされ、各教員研修の有効性が検証・実証されてきた。しかし、各教員研修において、社会科教師にどのような資質・能力を形成することが期待されているのか（＝目標論）、それを形成するために、何をどのように組織化しているのか（＝内容論、方法論）、という原理的な問いの解明には課題が残されてきた。そのため、社会科教員研修の開発・改革を図る方途を示す上でも限界があった。

教師としての資質・能力のうち、各教科の授業を実施する上で、その教科に固有なものがあり、それは、単元構成や評価のあり方などに表れている。本論文では、我が国における社会科教員研修の具体的な検討によって引き出された「社会科授業構成力」、「社会科教科観」をキー概念として、社会科教員研修の目標論を設定した結果、①社会科授業構成力の向上を図る研修、②社会科教科観の確立を図る研修、③社会科教科観の拡張を図る研修という三つの型の研修の在り方を見出すことができた。

第2に、このような研究成果を基盤にして、我が国で実施可能な三つの型の研修プログラムの概要を示し得たことである。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

平成 28年 2月15日

